

毎日の授業や生徒との接し方に悩む若い先生たち、こんな小さなきっかけから生徒が変わります。

問われる教師力

1 国語教師の仕事

国語教師は、自分の受けもつ子どもたち一人ひとりに、生涯にわたって必要な言葉の力をつけること、つまり生きる力として、言葉で理解し表現する力と、言葉を学んでいこうとする態度を育てることを目ざしている。

国語教室では、子どもが生き生きと学習していなければならない。そして、学習を通して言葉の力が育っていることが必要だ。「子どもが生き生きと学習している」とは、子どもがやろうとすること、求められていることがわかって活動していること、生育歴、興味・関心の対象やその度合い、ものごとに取り組む姿勢や取り組みでやった成果、ものの見方・考え方など異なる子どもたちがそれぞれに応じて学習しているということ、学習しつつ思考し、想像し、創造し、自己を啓いているということ。そういう行為で満ちている場が教室である。そこには一人ひとりの学びがあるとともに、相互に学び合って個性を磨き向上しつつある状況がある。その状況は、常に将来に向かって動いており、その連続する時間の中に身を置いて、子どもたちと触れ合い、格闘し、さまざまな人間関係を結びつつ、それぞれに学びを形成し（ときには支援し、ときには突き放しながらも）、人間形成を図る、そういう教師像を目ざす。

2 学習が成り立つ、つまり授業を作る

学習には目標があつて、それに向かって活動し、指導

者はその目標を設定する。学習目標は、学習者の側から出る場合もあり、学習指導から必然的に生まれることもある。また、指導者の指導理念や指導しようとする事柄・体系から選り出されることもある。どのような経緯であろうと、学習目標が決まるということは、指導する内容も決まったということだ。

はじめ漠としていた学習目標が実際の学習目標になるというのはどういうことか。まず、学習者の実態が把握され、そこから指導すべきことが取り出され、絞られて明確になっていく。それが学校の立てた（企てた）カリキュラムのどこに位置づくか吟味され、学習材・学習方法との関連で、学習のひとまとまりができてくる。こういう操作を経て学習内容が決まり、学習目標も決まって、具体的な言語活動は始まるのだ。この学習のひとまとまりを普通「単元」と言っている。単元は教師が作るものである。学習者を見て、「学習者にあつた学習Ⅱ授業」を展開する。教科書があつて教科書の順番に教えるというのは初心者のやること。本来、教師は、授業を作る、カリキュラムを立てるべきものである。

3 問われる教師力

単元を考えると授業設計のことである。学習者の実態をつかんで、この学習者にどのような力をつけ育てるのかを考えていくときに、学習材と学習の方法Ⅱ学習活動（言語活動）・学習形態を、時間の流れに沿って考え

合わせ、設計するのである。一つのまとまった形にするのである。このとき発揮されるのが教師の力量である。

わたしはこれを「教師力」と言いたい。ここでは、単元作りに必要な教師力を列挙しておく。

（1）学習者ウォッチング力

学習者ウォッチングはいろいろな方法がある。教室での言語行動、表情、作文、ポートフォリオ、指導者の働きかけに対する反応など、どの力が不足しているか、どんな力をつけなければならないか、興味・関心、学習方・発想の傾向などについて一人ひとり捉える。

（2）指導内容に関する知識

どんな力をつけなければならないか、何が不足かを知らするために、言語に関する自分なりの能力表をもつこと（自家薬籠中のものとして）。学習指導要領を見ること。

（3）学習材化力

学習材になる（する）候補は広く存在する。地域の言語文化、伝統芸能、言語文化の型、出版される本、新聞、テレビ、近隣の人たちの話など、高くアンテナを掲げて取材し学習材に組み込みたい。第一級の学習材に教師の話と文章がある。学習者に示すモデルでもあるが、教師の短い話は「聞く」学習の絶好の教材である。学習者の作品や卒業生・先輩・親や祖父母の言葉なども取り入れたい。

学習材は単元が始まると順次、変わっていく。学習者や指導者の言語活動が学習材となっていくからである。

（4）学習方法Ⅱ学習活動（言語活動）・学習形態のノウハウについての知識

・どんな言語活動（聞く・話す・読む・書く・見る・話し合う・調べる・創る・演じるなど）をさせるのか。 ※

・ひとり学びの状況作りか、学び合いの状況作りか、集団（二斉）の学習状況作りか。

・対話、話し合い、討議、スピーチ、文章のジャンル、表現形態のいろいろ。

・練習（学習）か、本番（実の場）か。

（5）学習指導のためのノウハウ（道具など）

・モデル（サンプル）提示を考える。
・学習の手びきを用意する。
・ノート、情報カード、手づくりのワークシートなど。
・大道具（机や椅子などの配置、黒板）と小物類（ベル、ストップウォッチ、掲示板、パネル、マイク、各種の紙、筆記用具）
・ICT関係の用具など。

（元岐阜大学教授）

※「見る」

ヴィジュアルなものと文字をつなぐものが「見る」である。写真のデジタル化、パソコン入力・出力が自在であり、ICT教育にも欠かせないものとなっている。メディアを介して「聞く」「読む」「書く」「話す」が要求される時代である。

